

同援だより

2008年 新春号

<http://www.douen.jp/>



新年のご挨拶

理事長 牧野 洋 一



明けましておめでとうございます。
新年を迎え、皆様のご健勝を心よりお喜び申し上げます。

本年も法人・施設の運営に当たり格別のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

わが国経済は、昨年前半に明るい兆しが見えたところですが、後半には世界的な「サブプライムローン問題」の影響が広がり先行きに不安を投げかけました。こうした中で、「安定した年金制度の維持」や「都市と地方の格差問題」等をめぐる税財源問題が広く議論されたところです。

今年も引き続き、社会保障や社会福祉分野において、その財源問題が大きく取り上げられる一年になると思われれます。

一方、昨年は、食品偽装や英会話学校の倒産など企業の「コンプライアンス」が厳しく問われた二年でした。とりわけ、介護保険をめぐるコムスン等による不正事件は、制度の根幹をゆるがしかねない大きな社会問題となりました。サービスを提供するにあたって、「順法の精神」が如何に大事かを再認識したところです。おかげさまで、昨年は、当法人の経営する施設においては、社会福祉法人をめぐる厳しい経営環境にもかかわらず、役員員二丸となつて取り組んだ結果、適切な収支を確保し、格別な事故もなく新しい年を迎えられました。

今年も当法人にとって、老朽化した施設の建替え問題や、人手不足の中における有為な人材の確保対策、良質なサービスを提供するための職員のスキル向上策等課題は山積しております。限られた財源の中で、これらの課題に対応するためには、従来から取り組んできた法人改革をさらに進め、将来を見据えた法人づくりを推進する必要があります。

今年も利用者本位の施設運営に努めるとともに、地域福祉の増進のため「層努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

福祉サービス講演会より

福祉の先進国と言われるスウェーデンから講師をお招きして二〇〇七年十二月十五日に講演会を開催いたしました。今回その概要について報告させていただきます。

テーマは、高齢者支援についてイェテボリ市の「三つの財団」で活躍するMonica Berglund氏より、また障がい者支援については、スウェーデン日本で活躍するハンソン 友子氏よりご講演いただきました。

講師プロフィール

● Monica Berglund 講師

スウェーデンにおける高齢者施設ウエーガハウス、エング、ゴドバッケンとオチウムの三施設からなる約三百六十名程度の総合入所施設のダイレクター。認知症ケアに関して非常に優れた実績を有しています。また、職員を対象とした認知症ケアの教育も非常に盛んな施設です。

● ハンソン 友子 講師

スウェーデンにおけるノーマライゼーションの原理の翻訳、また、知的障害者のグループホームでの調査報告書の翻訳を実施しており、知的障害者ケア分野での活躍が顕著。

I スウェーデンの高齢者福祉と

実践者の視点

Monica Berglund 講師

1 スウェーデンの福祉の全体像

スウェーデンの人口は約九百万人、このうちの約17%約百五十万人の人が、六十五歳以上の高齢者です。スウェーデンは、今ヨーロッパの中では、一番の長寿国で、男性の平均寿命は七十八歳。女性は約八十二歳、そして日本と同じように少子化が進んでいます。しかし、スウェーデンの女性の特殊合計出生率は1.7ですから、一人の女性

が子供を産む数は、1.7人。それからスウェーデンには、もう一つ特徴があります。それは、シングル世帯です。一人住まいの人が非常に多いことです。それはなぜかということ、結構、離婚が多いからです。こんなに一人住まいの人が多いということは、今後の高齢者ケアについて色々大きな影響を与えるものだろうと思われています。スウェーデンにおける高齢者福祉は、主として税金によってまかなわれています。私達の住んでいるイェテボリのような市の財政の非常に多くが高齢者福祉に使われています。イェテ

ボリ市の財政のうちの約20%が高齢者福祉に使われています。そしてこの20%のうちの一番お金がかかる部分は、やはり入所型の高齢者施設にかかるお金です。これは約20%の市の予算の70%位が入所型ケアにかかっています。ホームヘルプサービス制度、在宅の方に支援をするヘルパーの支援部門が約28%です。

高齢者にケアが必要になることを予防するため、掘り起こし活動などにかかる費用が2%です。スウェーデンの高齢者福祉は大部分が税金によってまかなわれていると言ふふうに申し上げました。実際に、高齢者ケアにかかる経費のうちの約4%程度が自己負担金というふうに

言われています。一例をあげれば、入所型の高齢者住宅などに暮らしている方にどのくらい費用がかかるかという年間約四十五万スウェーデンクローネ。ということは約九百万円位、二人の方のお世話をするのにかかっています。そして、この高齢者住宅に暮ら

す人たちは何を負担するかと言うと、まず家賃、そして食費、それからケア料金です。しかし、一人の人がいう最高金額の頭打ち金額というのがあります。

したがって、収入の非常に少ない方でも、必ず全部の費用を払ってしまつた後で、手元にお小遣いのお金がいくら残るようになっていきます。言葉を交わると、スウェーデンでは、必要のある方は、どんな方でも、高齢者住宅に入居して、そこで暮らすことができる。ですから経済的理由で入所ができないことはない。家族が負担をしなくていい。そういう意味です。

スウェーデンの高齢者福祉のほとんど大部分が公共で行われています。現在、スウェーデン全体の平均で見ますと、90%が公共、残りの10%が民間。しかし、もちろん、これは国全体の平均で申し上げたわけですから、例えばストックホルムとかマルメなど、市によりましては、民間になるのがもっと進んでいるところもあります。

2 スウェーデンの高齢者福祉の歴史

スウェーデンの高齢者福祉の歴史について少しお話ししたいと思います。それは、もうずっと昔スウェーデンでも貧民救済という考えがあった時代、ここが始まりでした。1900年代に入りますと、高齢者福祉という形で老人ホームとか、年金生活者の家とか、サービスハウスとか名前は変わってまってきたけども、入所型のケアが始まってきた時代です。

1960年代には、病弱、虚弱の高齢者のためにナーシングホームとか、長期療養型の施設がつけられるようになりました。しかし、当時、市が運営している部分と、県が運営している部分の間に大きな分かれ目がありました。そして、これが利用者に大きな影響を与えました。市が運営している高齢者住宅に住んでいる人と、県、自治体が運営している施設にいらつしやる方では自己負担金がまったく違っていたんです。というのは、市の運営している老人ホームでは、医療

ケアを受けることができなかつたんですね。ですから老人ホームに住んでいて病気になる、今度またナーシングホームとか長期療養型病院とかに移るように高齢者をたらいまわしにしていた。そういう時代がありました。

これはどういうふうになったかというところ、介護度、要介護度、それから医療行為が必要であるかということによって、高齢者を移していくという時代があったのです。百年前にはスウェーデンにも、今のような高齢者福祉というのがありませんでした。ですから寄付金を集めて、そして高齢者のお世話をするために寄付金を元にしてつくられたものでした。

しかし、こういった考え方をええよというところで大きな福祉改革というのが行われました。それが1992年に行われたものです。この1992年の大きな改革をエーデル改革というふうに呼んでいます。

このエーデル改革の大きな特徴は、1992年以降は、市が高齢者のすべ

での介護と看護の責任を持つて行うというふうに変わったということです。しかも、自分が在宅ですつと暮らしている方と、それから高齢者住宅に入つて住んでいようとまったく同じ生活ができるべきであるというふうに考えました。しかも、市の運営する老人ホームに住んでいても、県の運営するナーシングホームに住んでも負担金を同じにする。そういう違いをなくすことにしました。どこに住んでいても経済的条件は同じにするということになったのです。

しかし、私達が感じる最大の変化はどういうことかというところ、一度自分の家から入所型施設に移つたら、そこでターミナルケアまでする。ですから、たらいまわしをしないで、一ヶ所最後までお世話をする。これが大きな違いでした。

3 様々な支援の方法

いろいろな形の支援の方法があります。まず在宅でいらつしやる方です

と、ヘルパーから支援を受けることができます。自分の家に住んでいて、時々、デイサービスに通うこともできます。配食サービスを受けることもできます。それから、安心電話というものも利用することができます。それから、自分で在宅生活が長く続けることができるように、例えば、風呂桶があるとすると、そのバスタブをとってしまつてシャワーに変えたり、建物の中にある敷居を取り除いたりする。こういう住宅改造もしてもらうこともできます。

それから、もし病弱になつてきますと訪問介護によつて、医療ケアをうけることもできます。

それから、色々なタイプのショートステイ、またはリハビリホームのようなものがあります。ですから、短期間だけ、入所して集中的にリハビリを受けたり、ご家族の方が少しゆつくり息抜きをしたりするというような形のホームもあります。

イエテボリでは、高齢者住宅と呼ん

でいますが、これが入所型施設ですね。スウェーデン全体で見ますと、この入所型施設のベッド数は減少してきました。この高齢者の入所型施設が減少したと言うのは、昔は二人部屋とか三人部屋があったのを、全部個室に変えてきたわけですね。それで、入所者の数が減ってきました。

現在、スウェーデンで、こういう入所型施設で暮らしている方たちの最大のグループは認知症という病気にかかっている高齢者です。現在、新築されたり、改造される高齢者住宅は、主として認知症の患者の方のためにケアする場所、これが目的に作られています。

それから、もう一つ、どうしてもやはり施設型で入所して暮らさなければ、だめであろうというのは、高齢で、精神的疾患を患っている人たち。これは高齢者を対象としたグループホームの二つのモデルです。八人から十人の人たちが小さなユニットを作ってグループで暮らしています。まず共通の非常に大きなダイニングキッチンと居間

があります。共通するスペースです。そして、これらは個人専用のアパートです。約三十平方メートルの広さがあります。全部の部屋に、シャワーとトイレがついています。非常に広い、幅広いトイレとシャワーですね。これは病弱になって、例えば、電動車いすを使うようになったり、ほぼ寝たきり

になっても、寝たきりのままシャワーを浴びることができるような器具を使えるようになっていくのです。それから、非常に簡単な簡易キッチンも付いています。現在、こういうグループホームで暮らす高齢者は、もうキッチンが付いていても、お料理ができない方がほとんどです。しかし、法律により、台所が付いていることというのが決められているからです。

もちろん、スウェーデンでこういったグループホームが生まれてきたときは、認知症の高齢者のための、グループホームの二つのモデルとして生まれたものです。しかし、現在ではスウェーデンで作られている、高齢者住宅入所

型の施設は、こういったことをベースにしているユニット・ケアがほとんどです。したがって、私の勤務する三つの財団のユニットは、大体全部が八人から十人のユニットで、一つのグループを作って暮らしています。

4 三つの財団について

ここからは、私が勤務する「三つの財団」について詳しくお話していきたいと思います。

三つの財団とはどういう意味かという点、イエテボリ市内の三箇所に入所型施設を運営している。そういう意味で三つの財団なのです。三箇所全部あわせると、三百六十名の高齢者が暮らしていらっしやいます。職員の数も同じくらい、約三百六十名くらいです。三つの財団は非常に古いもので、1700年代の末頃に設立されたものです。したがって、その当時は、寄付金を基として作られたものです。

この三つの財団最高責任者は、市民会議によって認定された議員たち。そ

して、私たち三つの財団は当然、委託されていますから、イエテボリ市から委託されて、高齢者ケアを行っている所です。私たちは、方針として、この三つの財団の施設で暮らす方たちが、非常に意義深い毎日が送れるように考えています。そのためには、ここで住む人達を中心に、個人を中心に考えています。しかも、ここで暮らす人たちが、みなさん非常に質の高い人生の質、QOLをエンジョイしていただきたいと思っています。そして、どういう環境かというと、家庭らしい環境の下で暮らしていただきたいと思っています。

三つの財団では、この十五年くらい掛けて、改革活動をしてきました。三つの事をほぼ同時にしてきましたね。何をしたかというと、職員教育、それから業務改革、それと同時に建物も最新のものに改築していく、この三つを平行してやってきました。

なぜ、こういう改革をしてきたかというと、三つの財団の高齢者住宅は、私



が歳をとったときに、自分も住みたい

など思う様なそういうタイプの高齢者住宅にしたいからです。そして、職員教育をする際には、このことをずいぶん話し合ってきました。あなたが歳を取ったら、この施設に入りたいと思いますか。もし入りたくない。じゃあ、どこを変えていけばいいのか。何が良くないのか。そういうふうにして書いてもらうように。そんな風にして

話し合いを進めてきました。

こういうやり方をしていくとすぐわかります。どこを改革、改造していかなければいけないのか。改善していかねばならないのか。それから、この三つの財団で勤務する職員たちは、誇りをもって、私たちは今非常にいい高齢者ケアをしているから、自分の家族、親戚とかを是非入りなさいと勧めることができる。こういうふうに言えるようにしたい。

私は、職員が高齢者に接する際の接し方、これは非常に大切だと思っております。どういう意味かという、私たち職員は、職場ではありません。しかし、高齢者のお宅にたえず進入しているのだという。こういう考えを絶えず覚えていること。そして、こ

にいる高齢者たちは、ただ私たちの職場にいる人、仕事をする対象者ではない。そういうふうを考えるように教えています。絶えず自分は、個人の家に入って行っているんだ。こういう考え方をもっていると接し方も違ってくると思います。まず、私は若い職員達にも、一人の歳を取った方が、今までずっと住みなれた家を離れて、今までの生活を変えて、こういう入所型施設に入ってくるということが、どういうものであるかということを理解してもらいたいと、そういうふうに教育しています。中にはきつと、絶対に引越したくないと思っている人もいます。でも、もう病気になって、歳をとってしまったから、今までの家に住んでいられないから、引越さなければならぬという方もいらっしゃるでしょう。中には、認知症が進んだために、なぜ引越さなければならぬのが、理解できない人もいらっしゃる。そして二人の高齢者が家から、三つの財団の高齢者住宅などに引越しても、これが新し

い家だ、自分の本当の家庭だというふうに理解できるまでには、長い時間がかかります。そのためには、どうしても新しく引越してきたところで、安心していただける。尊厳を持って生きられることが重要です。しかも、自分の日常生活に反映することには、自分の意見を反映できると、自分で決められるって言うふうに感じることです。

5 認知症について

少しだけ認知症ケアについて話したいと思います。

認知症というのは、やはり高齢になるにしたがって、かかる率が多くなる病気です。したがって、認知症の方は認知症だけでなく、その前に、いろんな病気を抱えている方が多いです。それにしたがって、色んな意味での機能障害というのが出てきます。ですから、ある意味では認知症というのは、高齢者に多い病気です。高齢になるに従って認知症になる危険性が

高まります。六十五歳以下の方ですと二十人に二人がかかると言われて
います。ところが、八十五歳以上にな
りますと、五人に一人発病する。確率
が高くなっています。現在、スウェーデ
ンでは、認知症という病気が、最大の
国民の一般的にかかる病気のつたと
言われています。スウェーデンでは、約
十五万の方が何らかの形の認知症に
かかっていると言われています。

しかし、認知症という病気は、いろい
ろな症状が集まった症候群です。私
たちは、これは脳の病気である。しか
も進行性であつて、脳の様々な分野に
影響を与えていく病気であると捉え
ています。「三つの財団」の中にクラブ・

メーダというグループがあります。ま
だ在宅にいらつしやる早期の認知症の
方たちが、別にニーズ判定員とか、要
介護度が何とか、判定をうけて
なくて、自由にこられる。そういうタ
イプのデイサービスです。とくにこの
クラブ・メーダは、対象を限定してい
ます。六十五歳以下。アルツハイマー

型の認知症の方達です。スウェーデン
では現在、アルツハイマー型の認知症
になる方が若年化、年齢が年々々々
下がつていっているとされています。

Ⅱ この後、ハンソン 友子講師よ
り、重度の知的障害のある方が自
立して地域社会で暮らす事例紹介
がありました。そのバックグラウ
ンドとなる、ノーマライゼーショ
ンの原理の翻訳を通して講師が
感じた目に見えないスウェーデン
社会の分析も含めた講演がありま
した。

講演の概要は、以上のとおりです。
紙面に限りがあり全体をお示しで
きないのは残念ですが、少しでも講演
の趣旨を伝えられればと掲載いたし
ました。これからも同援の福祉サー
ビスの深化と発展のために多彩な講
師による講演会を企画させていただきます。
ご期待下さい。

研修委員会

同援本部の新卒採用説明会に50名

1) 平成20年度の新卒採用につきましては、より優れた
人材確保を実現するため、多くの大学、短大、専門学
校への周知、さらにホームページへの掲載などを通じ
まして募集して来たところです。とりわけ教育機関別
では、21大学、15短大13専門校に周知し、計49校に
達しました。

その結果、本部説明会には合計50名の参加者が
ありました。教育機関内訳は ①大学院2名 ②大学26
名 ③短大7名 ④専門校15名であり、地域別では、都
内のみならず、関東近県や仙台市からも応募がありま
した。

2) 採用試験には、39名の応募があり、小論文、面接試
験の結果23名の内定者が決りました。

新卒らしい情熱と優れた学習意欲にあふれた学生
が集まり、真剣に試験に取り組みました。

3) 今後は、1月に集合研修、2月に施設研修、3月に新人
研修が予定されております。

以下に、採用状況の概要を示します。

○各大学、短大、専門学校への周知

事務局及び各施設に連絡をいただいたすべての大
学、短大、専門学校へ求人票を発送。

発送大学等 49校

内訳 ①21大学 ②15短大 ③13専門校

○本部説明会参加者数 50名

1大学院2名、大学26名 2短大7名 3専門校 15名

○採用試験

(1) 小論文 1200字程度 午前10時~11時

(2) 面接 各20分 午前11時10分~

(3) 受験者数 39名

①大学院2名、大学24名 ②短大6名

③専門校 7名

4) 採用内定承諾者 23名

①大学院1名、大学15名 ②短大3名

③専門校 4名

『骨粗鬆症の予防と治療』

昭島病院整形外科
医師 上野 竜一

去る十二月

十二日(水)午後

二時より昭島病

院会議室におい

て、当院の外来患

者さん、また、立

川市など近隣の

市民の方など約

五十人の方々のご参加を頂き、市民公

開講座「骨粗鬆症について」の講演を

行うことができました。今回の講演の

中では、骨についての基礎的な内容から、

骨粗鬆症の定義、骨粗鬆症が健康に与

える影響を説明し、さらに日常診療に

おける診断、治療、処方されている薬の

説明、予防、合併症としての骨折やその

予防についてお話をしました。次に、栄

養課の方からは栄養面からの具体的な

献立を含めて、おはなしがありました。

以下に、当日の講演内容の要旨を述

べたいと思います。まず骨粗鬆症とは



骨強度の低下により骨折のリスクが

高くなった病態です。従って、この病気

の治療としては、骨強度を維持し、低

下させないこと、また、骨折を起こさな

いという二点に集約されます。この骨

強度に関係する要素として骨密度と

骨質があり、骨強度の70%は骨密度

に、残りの30%は骨質に依存するとい

われています。特に女性では、閉経の後

に骨密度が低下するため、六十歳代で

は、三人に一人、七十歳代以上では二人

に一人が骨粗鬆症であるといわれてお

り、ご自身の骨密度を把握することが

大切です。骨密度を測る方法はいろいろ

な方法がありますが、自治体などの

検診でも測ることができますし、当院

ではさらに詳細に検査することができます。

では骨密度を維持するためにはどの

ようにすればよいのか？ 第二には、骨成長

期における骨の蓄積や成長期の運動

が重要であり、思春期前半で最大骨量

の四分の二が蓄積されるといわれていま

す。また、骨粗鬆症が心配されるような

年齢に差し掛かるころには標準体重の

維持、食事・栄養摂取の適正化、運動習

慣など身体活動の維持が骨量の維持に

重要となります。ここでもし、骨量が低

下しているようであれば、注射や飲み薬

などを中心とした治療が必要となりま

す。以上のような骨強度の維持のほか

に、転倒防止ということが骨粗鬆症の

重大な合併症である骨折を予防するの

に大切です。

では骨粗鬆症で骨折しやすい部位に

はどんな部位があるのでしょうか。代

表的な骨折として、上腕骨近位部骨

折、脊椎圧迫骨折、橈骨遠位端骨折、大

腿骨近位部骨折(頸部骨折、転子部骨

折といわれるもの

です)があります。

この中でも大腿骨

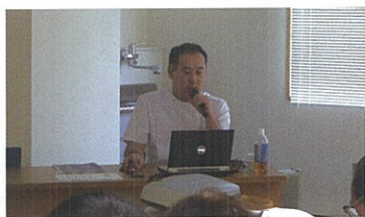
近位部骨折では、

この骨折を期に寝

たきりになってし

まう可能性が高

く、また、一度骨折



すると、一年以内に骨折した人の20%の

方は再骨折を起こす可能性があり、十

分な注意が必要です。以上の内容をま

とめますと、

一、成長期における栄養バランス、運動

を行ない、骨量を増加させ、高い骨

量頂値を獲得する。

二、閉経後の女性の低骨量者や急速な

骨量減少を早期に発見し、骨量の

更なる減少を予防する。

三、骨量が既に低下している高齢者で

は骨量の維持と転倒・骨折の防止

が重要である。

四、不幸にも転倒により骨折した場合

は、手術を含め、可及的早期に治

療し、復帰させることが重要であ

るといことです。

講演が終わり、聴講していただいた

方々からのアンケートでは、幸いなこと

によくわかっていただくことができましたよ

うですし、沢山のお褒めの言葉を頂く

ことができました。今回の骨粗鬆症と

いう病気に対する関心の高さを改めて

知ることができ、今後の日常診療の際

にも少しでも役立つ情報を提供できる

よう、努力してまいりたいと思います。

私の夢

小茂根福祉園

更生施設

● 萩野谷 幸 ●

ぼくは小さい頃から絵が好きでした。

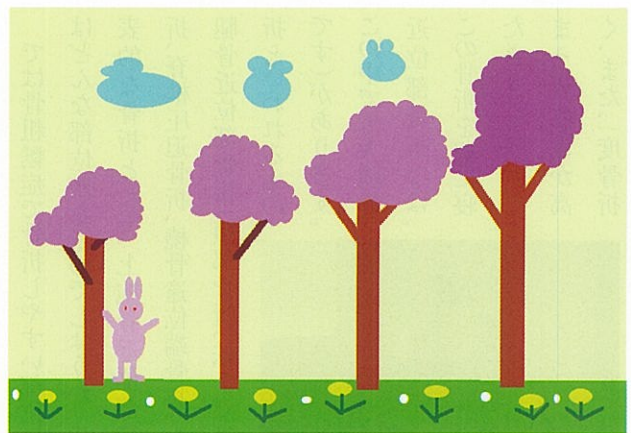
小茂根福祉園に来て最初は手でイラストを描いていました。パソコンを少しずつするようになってから、マウ



スで絵を描くのが上達してきました。細かいイラストを描くときもあるの
で、目が疲れます。時々、日にちをず
らしてやっています。出来上がる日に
ちが少し遅れるので色づけが難しい
ときもあります。細かいところは、最
後にやるようにしています。出来上
がったときは、やっと終わったと思う
けれど、もうちよつとあそこを、こう
すればよかったと思います。

● 須藤 玲子 ●
これからいろいろな絵をもっと描い
ていきたいです。夢は、美術展に出
て賞をとったり、自分の絵で本を作る
ことです。

小さいときに、絵本とかで字を覚え
たりしたから、絵本を書きたい。
うさぎが出てくる絵をパソコンで描
いているから、その絵を使って、自分
でお話を考えて作りたい。



授産施設

● 佐藤 恵子 ●

前の会社に就職したいです。何でも
というとお金貯めてもっと広い所
に住みたいからです。

今、ちよつと体調を悪くして仕事の
時間が短いので自分の事をせつせと
やっつけて働いている時間を多くしたい
と思います。

● 三田 雅彦 ●

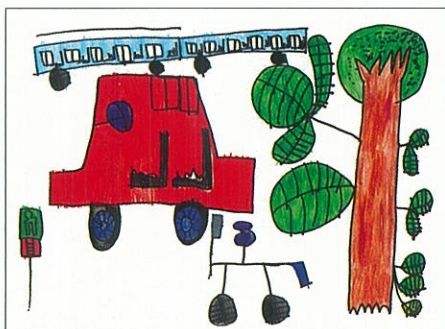
生活寮に入つて、自分の事が自分で
できるようにして、凸版印刷に就職
したい。

● 川崎 由江 ●

私は、こどもがとっても明るくて、か
わいくて好きだから、ピアノをもつ
とうまくなつて幼稚園の先生にな
りたい。

● 西 隆英 ●

毎日、自転車で出かけます。
自転車に乗っていると、いろんなもの
が見えて楽しいです。
僕の夢は、車の運転をすることです。



将 来 の 夢

むさしの保育園

チームのみんなと力を合わせてゴールしたいからサッカー選手になりたい。

(優 仁)

酸素ボンベで息を吸ってかっこいいし、消防車もかっこいいから消防士になりたい。

(岳 仁)



おいしいケーキをいっぱい作りたいからケーキ屋さんになりたい。

(彩 香)

友達に誘われておもしろそうだと思うからお笑い芸人になりたい。

(恒 平)

勉強したいから科学者になりたい。

(大 暉)

踊りが好きだからダンサーになりたい。

(エミイチカ)

ボールを蹴るところがかっこいいからサッカー選手になりたい。

(滯 み)

オカピとか好きな動物のお世話をしたから動物の飼育係になりたい。

(駿 平)

シュートするところが強くてかっこいいからサッカー選手になりたい。

(心 人)

新幹線が好きだから電車の運転手になりたい。

(光 希)

エプロンもお顔もきれいだし、小さい子のお世話が好きだから保育園の先生になりたい。

(晴 美)



ヘルメットとか洋服もかっこいいし、車が好きだからレーサーになりたい。

(遼 平)

悪い人を捕まえるのがかっこいいから警察官になりたい。

(礼 一)

横峰さくらちゃんのようなゴルフの選手になりたい。

(さくら)

みんなを、お昼寝する時にトントンしてあげたいから保育園の先生になりたい。

(琴 絵)



ボールを蹴るところがかっこいいからサッカー選手になりたい。

(大 威 樹)

野球が好きだから野球選手になりたい。

(涉 平)

お笑い芸人がおもしろくて、同じ事をしたいからお笑い芸人になりたい。

(菜 摘)

お家でいつも車で遊んでいて、車を運転したいからレーサーになりたい。

(宙 平)

動物が好きでもっと知りたいから動物博士になりたいのと、楽しいし痩せるからダンスの先生になりたい。

(拓 海)

積み木がいっぱいあるおもちゃ屋さんになりたい。

(毯 衣)

浅田真央も子どもの時バレエを習っていて、フィギア選手になったから同じようにフィギアの選手になりたい。

(麻 乃)

彩夏ちゃんと一緒にケーキを作りたいからケーキ屋さんになりたい。

(あかり)

ケーキをいっぱい作りたいからケーキ屋さんになりたい。

(彩 夏)



私の夢

5156家

● K・M ●

私は茨城県生まれですが、「いいの家」にお世話になり、平成十九年のクリスマスで丸三年になりました。

茨城のほうから、なぜ「いいの家」と思うと思いますが、今まで「いいの家」にくる前まで、二十年くらいスナック勤めをしていたのですが、給料もただけず、ただ働き状態で困っていた所、乳がんになってしまい、福祉のお世話になり、手術をしました。

これから先のことを考えていたところ、高円寺に友達がいましたので、相談したら「そんな所に居ないでこっちに出ておいで」と言うことでしたので、その人に甘える感じで東京に出てくることになりました。

その後、福祉の皆さんのおかげで「いいの家」を紹介いただきました。



K・Mさんが描いたパステル画

その後二年くらいは仕事もしていたのですが、今は癌が再発して、働けなくなりました。

でも、何もせず落ち込んでばかりいても、病気に負けるような気がしてまいりましたので、自分のできる

ことを少しずつやり、一日も早く元気になる事を願っています。

これから先、何年かの人生かも知れませんが、今までのような無駄な人生ではなく、今まで以上に楽しく生きていこうと思っておりますので、皆さんと友(共)に生きていきたいです。

● Y・T ●

わたしのゆめは、ベアの家のグループホームのパートに住むことです。そこでみんなと仲良くくらしたいです。

自分の好きな料理も作ってみたいとおもいます。

● N・I ●

わたしの夢は、子どもと一緒に暮らすことです(子どもの名前はいけません)。保育園のときに別れて、離れはなれにくらすようになりました。

いつも七夕のときには、短冊に「子どもに会いたい」と書いています。ひとめでも会いたいと思います。そしてできるなら一緒に暮らしたいです。

夢をかたちに

特別養護老人ホームフジホーム

介護長

小金沢康哲

高齢化社会という言葉も久しく思えるほど、もはや超高齢社会となり、特別養護老人ホームで生活されているご利用者の方々の多くは、様々な疾患や後遺症、障がいにより、ご家庭での生活の継続が困難になり、生活になんらかの介助の手が必要とされている方が入所されています。

在宅で介護を続けていくには困難なケースもあり、その解決策の一端を

担っているのが介護施設である特別養護老人ホームです。しかし、私たちに課せられている使命は受け皿的なものに留まらず、その方がその人らしく社会で生活していけるよう支援していくことであり、そのために多くの職員が日々努力をしています。

そんな中、入所を希望される深刻な介護問題を抱えたケースも増えて来ましたが、ご自分の身の回りのことを行

うことさえも困難であり、さらにそれ以前にご自分の意見や考えを訴えることが出来ない方々も少なくありません。

私たちの役割は、「その方が、この社会の中でその人らしく生活をしていけるよう援助をしていく」ことであり、そのため私たちがやらなければならぬことは多岐に渡ります。すべての職員が専門分野に分かれ協働し、ご利用者の方々をサポートしています。

ご利用者を前に、まず私たちが知らなければならぬのは「その人らしく」とは、どういうことであるのかということと、「その人らしく」を知るには、「その人」を知ることであり、「その人」を知るといことは、その人が「どのような人生」を歩んでこられたかを知ることとあります。その方の人生を知り、価値観を知り、共感し、受容していくことが介護の第一歩であり、それなくして介護は始まらないと考えております。しかし、ご自分のことを語る。ことができるご利用者は多くなく、ご家族や知人の方にそのヒントをいただき、それでもなお、手がかりが足りないという方も少なくありません。そのような場合でも、私たちはともに生活をしていく気持ちで時間をかけてご本人の生活を理解していきます。介護業務のインテークともいえるこの初期段階では高度な観察力、理解力、対人技

術がとても重要となってきます。

そういう過程を経て、認知症や障がいなどでご自分では言葉で表現できないことや言葉の裏にある本当の気持ちも含め、その方を「知る」ことで初めてその方のアドボカシーが可能となり、ニーズを知り得ます。「代弁」「権利擁護」とも訳される「アドボカシー」を行使することで、介護サービスが提供でき、その方の自己実現を援助することが出来るのです。

そういった多くのご利用者の方のアドボカシーされたニーズを探っていくことで、特別養護老人ホームのサービスが考案、提供されていきます。

そういった介護サービスと言われるものもここ数年で様変わりをしてまいりました。ご利用者の方たちのニーズもご本人たちの身体機能に比例し、以前はレクリエーション的な要素の強いサービスが主体でしたが、現在は、より精神的なニーズが強い傾向にあると思えます。たとえば、数年前までは、外出や買い物などのニーズが多かったのですが、現在は、三大介護といわれる食事・入浴・排泄は基本的なサービスとしては当然のこととし、手を握り、腕をさすり、肩を抱くなどスキンシップをし、疾患などの苦痛や苦悩に共感し、喜びを分かちあうような心に寄り添うサービスが増えてきたように思えます。繊細な人間の心のひだまでもす



くいとるような接遇が求められていると感じます。

より個別に対応を求められる介護サービスですが、非日常を感じることもまた、良い刺激となり生活を豊かにする重要な要素でもあります。

そんな中で、個別サービス以外にこの数年で、ご好評をいただいているサービスのひとつに「寿司キャラバン」「蕎麦キャラバン」が挙げられます。

プロの職人さんが来園し、ご利用者の方々の前で、寿司を握っていただいたり、蕎麦をうっていただいたりと、半年に一度にぎやかに開催されます。メニューといえば、寿司では、骨なしのやわらかいあなご、海苔の代わりにとびっこやとろろを使った巻き寿司、一口サイズで食べやすい様々なハーフサイズの握り寿司、消化と食べやすさに配慮したきざみ寿司、といった豪華さです。

当然、嚥下力に低下のあるご利用者の方々にも寿司、蕎麦にちなんだメニューを考案し、おいしく召し上がっていただきます。

多くの日本人がそうであるように食生活の中には、共通して関心のある献立があります。

こうした食生活・食文化には病気も年齢も関係なく、ご利用者の皆さんの顔もほころびます。そういう時の皆さんの会話の中には、戦中・戦後の苦しかった時代でも家族や仲間と過された楽しかった思い出がまるで光が射すように蘇ってくるように出てきます。

そして、ただただ頷かれる言葉の不自由な方、手を握り返してくださる方、そういうご利用者の方たちの心象風景を覗けたように感じます。その時、初めて私たちのアドボカシーが正しかったと自身に納得が出来るのではないのでしょうか。



言葉にならない声、表現できない気持ち、そういったご利用者のニーズをいかに掴み、代弁していくか、日々培っていく介護技術の中にそのヒントは隠されています。そして、そのニーズ・夢を形にしていくための自主性・行動力が、今求められている福祉施設職員の最も大きな要素ではないでしょうか。

全国老人福祉施設大会に参加して



ゆたか苑 園長

神田 祐一

介護保険制度の改正によって利用者の金銭的な負担が増加し、施設に支払われる介護報酬は減額されるなど、更なる経営努力が求められることになりました。一方、相次ぐ事業所の不祥事や、コンプライアンスの重要性を理解していないなどとする報道、業界全体の深刻な人材不足など高齢者介護を取り巻く状況が一段と厳しさを増す中で、開催となりました。社会福祉法人としての取り組みべき諸課題を明らかにし、解決への足掛かりを探ろうと、全国から会員施設の理事長、施設長ら二千二百人が参加しました。

基調報告では、老施協総研緊急調

査結果から、経営努力による賃金の抑制やこの介護員不足からくる「人件費予算残」が収益率を二〜三%も押し上げていた実態が明らかにされました。このことは、経費や人件費を削り経営努力を繰り返した結果、人は去り、見かけの収益で報酬が下がるシナリオが立証されるかたちとなりました。

介護現場の緊急課題「人材の確保と育成」に係わる分科会では、介護労働市場の実態調査を通じた調査研究などからのデータを基に分析、介護現場の実態が報告されました。介護職員は、一人ひとりが熱い想いを持っており、仕事意識が高く、「これでいいのだろうか?」と常に自問自答を繰り返している。いいケアをしたいから不安が募り、やりがいより、不安が先に立つ。ストレスが増すと不満に繋がりがり離職率を高める結果となる。その他、ストレス

を感じる要因として「夜間帯など人員が少ない時の緊急事態」「利用者満足度」「人材不足」を上げ、この対応を怠ることで、「待遇や人間関係」に不満を抱くようになり、退職していく実態が明らかにされました。

今の介護現場は疲れているが、「職場の作り方で、やりがいのある魅力ある職場に変えられる」「自分でやったことが、利用者のために繋がった」この積み重ねが大切であるとし、「特養は地域高齢者の安全を司ることができる機能を有し地域福祉の拠点としての役割がある」「特養の現状をリアルに発信する努力が求められている」「まだまだ介護の仕事も知られていない。介護職の魅力についても発信していかなければならぬ」地域で信頼を獲得出

来れば、自ずと人は集まり、職員も定着し、質の高い介護が実践でき、経営も安定するはずであると解決への糸口をここに提示されました。

シンポジウムでは「世界に類の無い超高齢化社会に立ち向かっている。わたしたちには世界のフロンティアとしての役割が期待されています。すごい仕事をしているのです。後世に語り継がれるような仕事をしていきたい」としたメッセージに、これからのありようを教えられ、勇気付けられた思いになり、平成二十年度の事業計画には、社会福祉施設における広報・広聴戦略の重要性、そして仕事をしながら学べる環境づくりの大切さを何らかのかたちで盛り込みたいと気持ちも新たにすることができました。

新型養護老人ホームにおける

万世敬老園の実践発表

万世敬老園 支援員 加藤 敏隆

平成十九年度全国老人福祉施設研究会 議岐阜卓会議において、新型養護老

人ホームへの移り変わりに向けた、万世敬老園における取り組み(プロジェクト

ト活動)を報告してきま

した。

プロジェクト活動は、平成十八年度より取り組みを始め、新型養護検討



プロジェクト・業務マニアルプロジェクト・支援ソフトウェアプロジェクトの四つの活動に加え、十八年度後半より始めた、サービスマナープロジェクト・介護予防プロジェクトの計六つの活動を行ってきました。

いくつかの活動の概要を紹介すると、ケアプランプロジェクトの活動は、養護老人ホームにおいて、標準化されたケアプランツールがない中で、万世敬老園独自のケアプランツールの作成からはじめ、それをいかに活用していくかということを検討・改善する活動を行ってきました。

サービスマナープロジェクトは、高齢者施設等での虐待という報告等を受け、園でのサービスマナーを見直すと共に、意識の向上と自己啓発を促し、より良いサービスを提供できるように取り組んでいます。

支援ソフトウェアプロジェクトは、業務の効率化情報の共有化に取り組んでいます。

今回の発表では、「利用者主体のよりよい生活を送れるようにする」を目標として活動してきた各プロジェクト活動の成果や取り組み、今後の方向性や課題、問題点等を報告してきました。

また、今回の発表した他の養護老人ホームは、外部サービス利用型特定施設としての現状において、様々な努力をしていることが分かります。万世敬老園もより一層の創意工夫が必要であると思われました。



最後に今回の研修に参加・発表するにあたり、万世敬老園をはじめ、多くの方々にご協力いただきましたことを感謝いたします。

■ふれあいフェスティバルに参加して

立川福祉作業所

去る十二月八日(土)、東京都庁都民広場にて行われた盲導犬普及啓発イベントで、BAKUBAKUのパンを販売してまいりました。お天気にも恵まれ、約三百個のパンを持つていききましたが、お昼過ぎにはほぼ売り切れ、イベント終了時間である十四時を待たずして大盛況のうちに完売しました。BAKUBAKUのイメージカラーである「グリーン」を基調とした制服を全員が着用したこともあつてか、通り過ぎる人が足を止め、声をかけてくれました。ご利用者は、普段お店での接客は行っていないため、最初は戸惑い気味でしたが、実際に自分たちのお店のパンが売れていく様子を見ているうちに「いらつしゃいませ」「ありがとうございしました」と自然に声が出るようになり、お買い上げいただいたものを袋に入れるなど、積極的に行動する姿が見られました。

持っていたパンの中で、パンダのクッキーがのつているキャラメルクリームパン



は小さな子どもたちにとっても人気があり、かぼちゃ餡を包んだ「かぼちゃ大王」と名づけたパンは男女問わずみんなが手にとつてくれました。休憩スペースにて多くの人がBAKUBAKUのパンを食べている様子を見て、ご利用者と共に嬉しい気持ちになりました。

このような機会があつたら是非参加していきたいと思えます。また、今回参加出来なかったご利用者にも今後、多くの経験・体験をしていただきたいと考えています。

BAKUBAKUが益々発展していきますように。



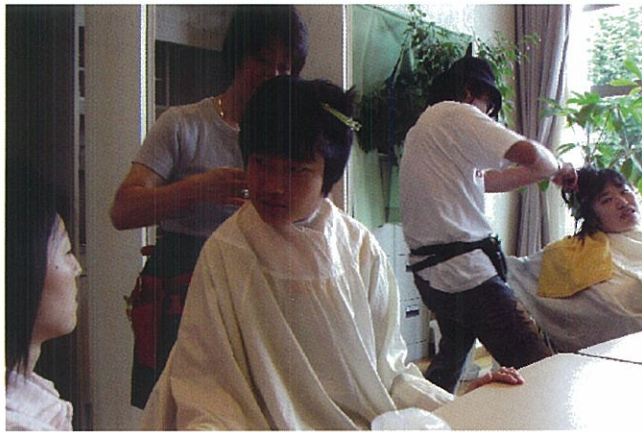
◆さいわい福祉センター◆

『八月三日ハサミの日』にちなんだ活動として、メイクアップ&ヘアカットボランティアの訪問がありました。この『ハサミの日』はハサミを使う職業に就く人たちが、使えなくなったハサミの供養をしに、東京芝の増上寺などに訪れるそうです。

今回は、小平市にある美容室『愛花夢』（あいかむ）の四名の皆さんにおいていただきました。

ほとんどの利用者の皆さんは、普段のヘアカットは、ご家族のファミリーカットで済ませているようです。せっかくの機会ですし、近隣の作業所にも声をかけて、プロの技術を体感してもらいました。

順番待ちをしているときからいつもと違う雰囲気、皆さんわくわくそわそわしていました。ケープをかけられ、「どんな風にしますか？」と聞かれると、大事そうに雑誌の切抜きを差し出し、「こんな髪型にしてください」と注文を出したり、カットされてゆく髪と鏡とを何度も見比べたり、それぞれが初体験を楽しみました。



「みんな綺麗になりたいんだよね」「ちよつとしたことで、こんなに喜んでくれる」と言った、ボランティアさんの感想が印象的でした。

メイクをしてもらった利用者は、「自分じゃないみたい、うれしい」と満面の笑みを浮かべていました。

おしゃべりは人生のエッセンスである、と読んだことがあります。ほんの少しの気遣いで、気持ちが悪れる、さわやかに、前向きになる。そんな当たり前のことを再確認しました。ありがとうございます。

(宮本記)

◆サンライズ万世◆

サンライズ万世では、仕事や子育てに追われているお母さん方が、日々の疲れを癒してもらうため、就学前のお子さんをお預かりする「リフレッシュ保育」を年四回計画し、第三回目を十一月十八日(日曜日)に実施しました。

前回までは、お預かりしたお子さん全員で同じ場所に出かけていましたが、今回は、乳幼児二十名の「大所帯」での保育になりました。そこで、四〜五歳児が八名のグループ、二〜三歳児が八名のグループ、零〜一歳児が四名のグループと三組に分けそれぞれ、国営昭和記念公園、昭和郷保育園の園庭、万世内保育室に分かれて保育しました。

昭和記念公園のグループは、比較的年齢の高いグループだったので、全体的には職員やボランティアとかかわることよりも、子ども同士で遊ぶことのほうが多く楽しく過ごしていました。

昭和郷保育園園庭グループは、園庭で楽しく遊具で遊んだ後、散歩にでかけた公園で偶然開催されていたイベントで、ポニーに乗ることができ、大変珍しい体験ができ子どもたちは大喜びでした。

保育室グループは、お母さんと離れるのが一苦労で、最初は泣き声の大合唱でしたが、しだいに泣き声が消え楽しく絵本を見たり玩具で遊んだり、アニメの

同 援 俳 壇

昭島荘 道向会

小春日に

雪を被りて富士の峰

フキ子

右足の踏んばり利かぬ寒の道

香雄

雪富士や

元気をくれて有難う

博吉

初時雨

孫の便りを読み返す

美知子

ほろ酔いて

熱々おでん夜の膳

通子

庭園の

水面に映える薄もみじ

きぬゑ

初時雨

傘傾けて仕事場に

信吾

ビデオを見て過ごしました。

一方、お母さんは、お買い物をしたり、お部屋のお掃除をしたり、美容院に行ったりと、それぞれ充実した時間を過ごし、リフレッシュ保育の実施回数を増やしてほしいという声も聞かれました。

ここ二年くらいの間、多子世帯の増加に伴い、乳幼児の数も多くなりました。その分、職員だけではリフレッシュ保育の実施が難しい状況になっています。毎回、大勢のボランティアにご協力を頂いています。このような状況ですが、引き続き今後も、よりお母さん方がリフレッシュできるような方法を考えて実施したいと思います。

(富田記)



◆ みなと保育園 ◆

みなと保育園は高輪という閑静な住宅地の中にある、定員七十名の小さな保育園です。

園庭がないため運動会は近くの中学校の体育館をお借りして行っていますが、発表会は狭いながらも保育園内で行ってきました。入れ替え制にするなど工夫をしてみました。狭い園内で行うことでの限界もあり保護者の方から「狭くてゆっくり見られない」などの声が年々多く聞かれてきました。そこで、今年から思い切って発表会も保育園をとり出して、近くにある区民ホールを利用して行うことに致しました。

外の施設を使つての発表会経験者が少ない中で経験者からの話を聞き、園外で発表している保育園を見学させてもらい参考にしながら、皆で準備を進めてきました。

発表会当日はお父さん、お母さんをはじめ祖父母、兄弟など今まで以上に沢山の皆さんが見に来て下さいました。そんな中で緊張しているのは大人の私たちでした。子どもたちは練習のときの姿と変わることなく広い舞台に出て来ても泣く姿も見られず、むしろ歌や合奏、劇など堂々と演じることが出来ました。これまで以上の力を発揮した



子どもたちには本当に驚かされました。今回特に嬉しかったのは最後の演目まで殆んどの皆さんが帰らずに見てくださったことです。

また終了後は沢山の保護者の方から「子どもたち頑張りましたね」「感動して涙が出ました」「ゆっくり見ることが出来て良かったです」の言葉に混じって「準備ご苦労様」と温かい言葉を沢山いただきました。しかし、進行上での反省点も多々あり、今後はこのことを踏まえ次回に繋げてもらうと皆さんに喜んでいただける発表会にしていきたいと思つています。

(宝田記)

万世敬老園 あざさる句会

良い夜を

過ごしておりぬ温め酒

山口 道子

八十路越え

名歌残して逝きし秋

武藤 香雄

数珠玉の

連なる枝のたわむなり

月岡 久三

夕映に

さくら紅葉の又燃えぬ

月岡 久三

あざやかに

野路彩る式部の実

宜 準子
(松本誠司)

ライトホーム俳句・短歌

不動堂

参りてもどる初あかり

佳 杼

連なりて氷柱垂す偏刺は

ゆったりと越の春はこびくる

とみ子

ボランティアの声

■サンライズ青山

ボランティア ピアノ講師

中里 南子

私はサンライズ青山でボランティアピアノ講師をさせて頂いて二年目になります。現在四人の小学生を教えています。ピアノがもともと弾ける子どもは殆んどおりません。皆ここで始めてピアノを習う子どもばかりです。

どんな子ども達も達かいて、どんなレッスンをしているか、簡単にその風景をお話したいと思います。

A子ちゃんの場合。二年目になります。最初は音符が全く読めませんでした。もちろんピアノなど習った事はありません。ゲーム感覚で楽譜の勉強をしていくうちに、今では直ぐに音符が読めるようになり、右手のメロディーに簡単な左手の伴奏をつけて弾けるようになりました。自分が納得するまで一生懸命練習し、三十分のレッスン時間が過ぎて「まだやる！」と言って出来るまで帰ろうとはしない頑張る姿には、毎回驚かされています。

B子ちゃんの場合。一年目になります。やはり最初全く音符は読めません

でしたが、今ではすらすら読めるようになりました。宿題など出していないくても毎回三曲も四曲も、沢山練習してきます。その完璧な完成度にはとても、感心させられてしまいます。又とても楽しんで弾いているので、私が簡単な伴奏をつけてあげると、リズムに乗ってあつという間に三十分の時間が過ぎてしまう程です。

一ヶ月の中でたった二回のレッスンですが、子ども達はとても楽しみにしてくれています。今まで、私は色んな所でピ



アノを習う子ども達と接してきましたが、三十分のレッスンを純粋に楽しみ、好きな曲が弾けるようにと一生懸命こんなに練習してくれる子ども達は始めてです。

「音楽」とは文字通り「音を楽しむ」ものですが、いつの日か忘れかけてしまっています。それを子ども達は改めて人肌で教えてくれたような気が致します。このような機会を与えて下さった職員の皆様、そして子ども達に深く感謝しております。

■ニューフジホーム

ボランティア

柿沼 洋子

私のボランティア活動は、特養ホームの仕事の延長線にあり、現在暦は、ほぼ活動で埋まっています。

在宅での介護力の低下や障害の重度化等で施設への入所も致し方ない事ですが、地域にいて、家族や友人達の中で自分らしく生活出来たらいいに決まっています。

お年寄りが少しでも長く在宅で生活出来るように、仕事で身につけた知恵や知識が役に立たないかと考え活動を始めました。

介護保険や介護予防という制度が出来前から老化防止体操や生きが

い活動の応援団です。

ホームでは長い間、ボランティアの受入係として携わってきました。当時は市民の中にも職場の中でも今ほど活発には行われていませんでした。職場でも、仕事の邪魔になるから要らないとの声まであがったり、活動者も来たり来なかったりの状態でした。職員と活動者の両方に意識改革が必要だったのです。退職前の五、六年間は、年間二千名の活動者が四千時間位活動し、ホームのあちらこちらで、笑顔の対話が行き交うようになりました。

六十歳から百歳までの幅広い人生の先輩の生活の場であるホームは、職員にも、活動者にも、すべてが学びの場となります。

お年寄りひとり一人が、生きがいの持てる日々であるように、心に寄り添ったサポートをと心がけてきました。

お年寄りには、介護を受けながらも出来る限り、自分らしく楽しい日々を送ってもらいたいと思います。

私自身もその様に生きていきたいのです。

人は人との関わりの中で成長して行きます。活動を通して、生涯友人でいたいと思う人に沢山出会う事ができました。

七十八になった私が、人形片手に、施設に遊びに行く日を夢に見ながら、現在腹話術に挑戦し始めました。

■ やまびこクラブ

さやま園学習ボランティア

鈴木ヒロ子

それは私室の暗い電灯の下での読書、確か鈴木三重吉の童話の読み聞かせから始まりました。S氏からの依頼で夜八時頃から毎回数人の方々に囲まれた楽しい雰囲気の中でした。

転勤となり中断。退職後再訪した園は様相一変近代的な立派な施設となり時の流れを痛感いたしました。

読み聞かせに知的関心を示した彼女等にそこを拠点に少しずつでも知的興味の展がりが出て来るなら：出来るはずは無い。半信半疑ではありましたが園長始め職員の方々のご理解を得て日曜の午前中のお時間を明るいお室で希望者の方々と楽しいひとときがスタートしました。

園の旅行ではそれに先立ち旅のオリエンテーションを兼ね地理的分野、社会のルール、マナー的な行動、時を忘れしつかり社会科の学習をしていました。

希望が多く英語の挨拶、アルファベット、驚異的な進歩に教材で四苦八苦しました。でも、名前も覚つかない現実も否めず、ひらがな、カタカナの練習プリント、小四迄の漢字練習等々。いつでも彼女たちは穏やかにゆったり受け止め宿題迄も要望してきます。

求める意欲に私は励まされ続ける

始末です。心情的な深い会話が出来ず、時折白い画用紙に自由表現を求めその中から彼女たちの不安定感を読みとり、雰囲気作りを心砕きました。とても微妙です。

年次目標を掲げられるようになり、「昨年は「助け合う仲間」、昨年は「自分の宝物を探そう」、そして今年には「句集を創ろう」と必ず時間内に創作の時間をとりがんばっています。

俳句の効用は自然に関心を持ち、数にこだわり思いがけず広い範囲での知的活動となつています。Oさんは二冊二〇〇円で売ろうと意欲を燃やしています。

「やまびこ」は必ず応えが返ってきます。明日がしっかり待っています。



■ 保育園とボランティア

受け入れの意義

昭和郷保育園 保育士

林部 裕子

昭和郷保育園では毎年様々な方々をボランティアとして受け入れていきます。平成十九年度は小学生、中学生、高校生、大学生、又実習生が実習後にボランティアとして来園されるケースもあります。希望があれば小学校低

学年より受け入れ延べ六十八名程の方が実際にクラスに入り日常の保育を体験して頂き、ボランティアに入る方の目的に応じた活動を支援しています。主に子ども達と一緒に遊び、小さい子のお世話ができることを楽しみ園児も又近所のお姉さん、お兄さんとの関わりを十分に楽しんでいました。中学生、高校生以上となるとボランティアとしての自覚をもつてくるので、仕事としての意味を自覚し、自発的に行動し、人の役に立とうとする気持ちが伝わってくる方も多くいました。

ボランティア日誌の中には初日の緊張している様子から日を追うごとに子ども達との触れ合いが楽しかったことや紙芝居などを読んだりする経験の中で、将来の仕事として考えてみたいとの記述もあり、受け入れる側としてもうれしく思います。

子ども達は沢山の人達と関わる中

で、世界が広がり、私達職員も新鮮な刺激を受けました。このように日常業務の一端を実感できたようです。

平成四年、生涯学習審議会の答申の中でボランティア活動の支援、推進は重要な課題として位置づけられてから小中高の授業の二環としてボランティア活動を進め、又ボランティア活動が科目の単位として認められるようになってきたことでも、ボランティアとしての体験がその人の将来に結びつく可能性もあると期待されます。

ボランティアとは「双方の喜びの為の自発的な社会貢献活動」という趣旨のもとに日本ではプロではなく余裕のある時間に無料で社会奉仕をしている人達をさすとあります。人の為に役に立つことが喜びとなりボランティア自身の成長と自己形成に影響を与えることができる場であることがボランティア受け入れの意義と言えらると思います。

ボランティアをしようとする人、又受け入れる側の双方が互いに保育園という人を育て、支援するという施設の中で沢山の交流や触れ合いを通して、あたたかい心や、やさしさをキャッチボールできる環境をつくっていくことが大切であり、少しでも保育園が社会に貢献できたらと考えています。

今後も職員皆で積極的にボランティア受け入れをしていきます。

祝表彰・感謝状受賞者

資格取得の紹介

雑感

多年の功績とご協力に対し、次の方々が受賞授与されました。おめでとうございます。

左記の方が資格取得しました。日頃の業務に生かして活躍を期待します。

◎瑞宝単光章

元さやま園

主任指導員 柏木 順子

【介護福祉士】

ゆたか苑

介護員 渡邊 達雄

◎(社)東京都社会福祉協議会

社会福祉施設役員功労者表彰

ゆたか苑

園長 神田 祐一

ご 寄 付

◇高橋恭一◇昭島サンセルフ 高野 實(他一件)◇森藤園 森田常彦◇Parti 森田利行◇末延医院 末延 清志

◎社会福祉施設・団体永年勤続

功績者表彰

サンホーム

生活指導員 澤田 順子

さいわい福祉センター

副所長 宮本 浩史

さやま園

副園長 荒井 隆夫

生活支援員 小澤 公世

同援さくら保育園

保育士 早坂 洋子

サンライズ青山

書記兼指導員 山崎 悦子

後 援 会

◇東京フードサービス(株)◇有にんや 杉田商店◇昭島市立昭和中学校◇中村屋魚店◇栄楽堂 中村茂 ◇森岡正代◇洋品店ウエノヤ

ご支援ありがとうございます。

(敬称略順不同)

子どもが大きくなるにつれ、サンタクローズに頼むプレゼントも大きくなってきた。いつまでサンタクローズを信じるのだろうか？もうそろそろ本当の事を伝えようか等と考えていたところに、今年もサンタクローズに頼みたいものを姉妹で話していた。

ある日、三年生になる下の娘が、得意げな顔をして「ママ！サンタクローズって本当はパパやママでしょ。知っているよ。友達から教えてもらったの。みんなも知っていたって。」と言ってきたのでこの際だと思った。「そうか、わかっちゃたから仕方ないね。何にするかは、相談して決めようね。」と話したところ、下の娘は、まずい事を言ってしまったのではないかと急に表情を曇らせた。六年生になる姉は「だから黙ってればよかったのに。」と言った。上の子はいつから気づいていたのだろうか？希望するプレゼントをもらうため黙っていたのだろうか？段々子どもの方が賢く親を使う

ようになるものだ。「いい子にしない」とサンタクローズが来ないよ。」と言い、子どもに気づかれないように四苦八苦してきた自分が妙におかしかった。

とうとう二〇〇七年のプレゼントは直接交渉となった。なんとかそれでも各々ほしい物を勝ち取ったようだ。親も財布の中身を見てホッとしました。

ただ、子どもがクリスマス前の夜から眠れず、欲しい物がもらえるのかわくわくしながら目覚め、朝プレゼントを見て喜ぶ姿をこれから見られないのはちょっと淋しい気もする。

(工藤 記)

― 表紙の写真 ―

「嬉しそうに」

(林 武司 氏)

平成二十年一月一日 発行
東京都新宿区原町三の八
電話 〇三(三三四一)七六一
社会福祉法人 東京都同胞援護会
発行者 牧野 洋一
印刷所 東京都同胞援護会事務局
東京都千代田区外神田一―一五